問 1

科学的知見の確度の判定には現実的な困難さがあり、人々は「分からない」という心理的不安から逃れるべく、権威の高さと情報の確度を同一視して判断する権威主義にすがりつく。しかしこれは、間違えることのできない“硬直したもの”を生み、可塑性ある“科学の生命力”を奪うことに繋がってしまう。物事を先入観なくあるがままに見る理性主義的思考をもって、個々の自由な営為の集合体であることが、生きている「科学」には必要だ。

（２００字）

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック
①科学的知見の確度の判定には現実的な困難さがある
②心理的不安から逃れるべく、権威の高さと情報の確度を同一視して判断する権威主義にすがりつく
③（権威主義は）可塑性ある“科学の生命力”を奪う
④物事を先入観なくあるがままに見る理性主義（的思考）が大切
⑤個々の自由な営為の集合体であることが、生きている「科学」には必要 ← “人類の営み”でも可

問 2

私の目指す臨床の現場においても、「医師の方が専門性が高いから」という権威主義的理由で、患者さんが尻込みして何も指摘できない状態になることがある。このような“硬直した”臨床現場を解消するため、私は以下に 2 点の改善策を提示したい。

１つは、医師が常に謙虚な姿勢を持つことである。「非専門家からの批判は無知に由来する」と考え、権威主義に陥ってはいけない。患者さんからの指摘や話すことを真摯に受け止め改善し、ときにセオリーでなくとも、患者さんの望む医療があればそれへ歩み寄っていく努力をすることが大切だ。

そしてもう１つは、信頼関係を構築することである。信頼できない医師を目の前にしては、患者さんも自身の感じたことや想いを話すのがためらわれてしまう。そのため、観察・傾聴・共感といった臨床コミュニケーションを通じ、日頃から患者さんとの信頼関係を築いて話しやすい環境を整えることが肝要だ。

（４００字）

Copylight © おかまるブログ／おかまる CH　All Rights Reserved.

出典【おかまるブログ】:http://okamaru.net/